



研究主題 「児童生徒が学びをつなぐ」教育課程の編成 (2年次/2年計画)

研究主題設定の理由

過年度研究の成果

令和4年度は、音楽科、職業・家庭科、保健体育科の三つの教科WGを柱とした研究を推進した。

【成果】

- ・校内外の人材活用による本物体験ができた。
- ・各教科等との関連の充実が図れた。
- ・「学びをつなげる」教師の意識の向上が見られた。
- ・他学部とのつながりを確認できた。
- ・人材活用による学ぶ意欲の向上と、体力の向上が見られた。

【課題・今後に向けて】

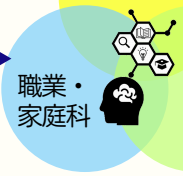
- ・教科WGと学部研究の両立が難しく、学部内のつながりを意識することができなかった。
- ・令和5年度から中学部に「職業・家庭科」を新設することとした。
- ・学習指導要領の着実な実施に向けた年間指導計画の内容と活用を検討したい。
- ・学部間のつながりを意識した弾力的な校内職員の活用をしたい。
- ・「何を学ぶか」を見通す児童生徒との計画、目標、評価の共有をしたい。

目指す学校像

地域と共に歩み
地域で育ち
地域に必要なとされる
ゆり支援学校



遊びの指導
生活単元学習



【令和5年度の研究対象授業】

以上の成果と課題から令和5年度は、以下の3点を中心に取り組むこととした。

- ・学部を中心とした授業実践、研究推進をする。
- ・教科の視点でどのように系統性や学びがつながっているか、他教科などにどのように学びをつなげているかという視点で児童生徒の変容を見取る。
- ・児童生徒の「思いや願い」を大切にした授業実践をするために、年間指導計画や「未来へのスケッチ」などの様式を活用できるものに変更する。

本校の目指す学校像、昨年度までの研究の取組、社会的背景を踏まえ、本研究主題「『児童生徒が学びをつなぐ』教育課程の編成」を設定した。

研究の目的

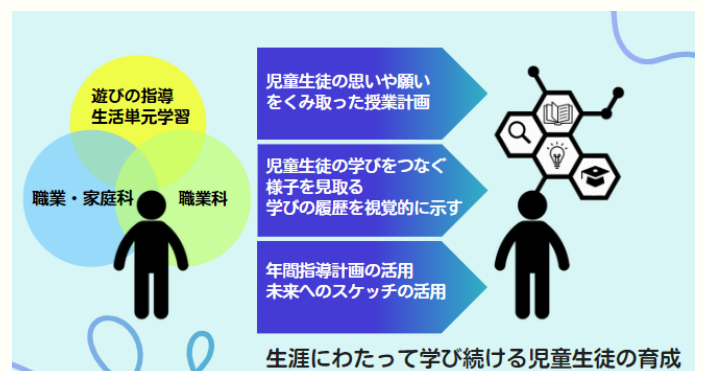
<現状>児童生徒自身が、学びがつながったという実感をもったり、次の学びに生かしたりする場面は限定的なことが多く、学びをつなぐために教師が工夫していく必要がある。

- ・将来の生活を見据えると、地域資源を活用しながら学んだり、学んだことを家庭でも実践し、学びの成果を保護者に知ってもらったりして地域や家庭と連携をして取り組みたい。
- ・学びがつながった経験をすることで生活をする範囲や興味・関心を広げ、将来の豊かな生活につなげたい。

日々の授業を通した児童生徒の姿がどのように学びにつながっていくか見取っていくことで、よりよい教育課程の編成になることを明らかにしたいと考えた。

研究仮説

小学部の遊びの指導、生活単元学習、中学部の職業・家庭科、高等部の職業科を対象授業として、児童生徒の思いや願いをくみ取った授業計画を作成し、児童生徒の学びをつなぐ様子を見取り、学びの履歴を視覚的に示すことによって、児童生徒が学びをつなぐことのできる教育課程の編成ができるであろう。また、年間指導計画や「未来へのスケッチ」の様式を検討し活用できるものにするすることで、学びがつながる経験を児童生徒が実感し、生涯にわたって学び続ける児童生徒の育成につながるであろう。



「児童生徒が学びをつなぐ」とは・・・

児童生徒が学びを見通したり、学んだことを活用し、次の学びに生かしたりしている状況を指している。また、児童生徒が学びをつなぐために、教師は学びをつなげる様々な支援を行う。

「学びをつなぐ対象」は・・・

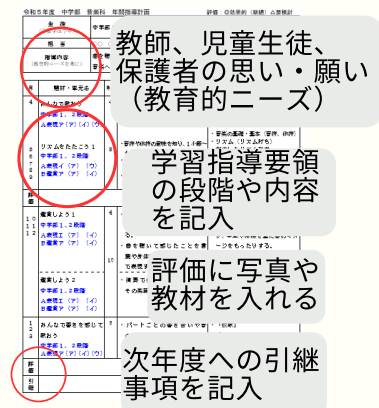
次の学び（学習）、他の場面（家庭や寄宿舎、地域社会）、他教科等、学年や学部間、キャリア教育の視点を想定している

研究の内容と方法

(1) 年間指導計画を授業や評価に活用できる様式に変更

令和4年度の実践から、年間指導計画をより活用できるものに変更したいと提案があった。そこで、以下のように様式を変更する。

- ・教師、児童生徒、保護者の思い・願い（教育的ニーズ）を基に指導内容を入れる
- ・学習指導要領の段階や内容を記入する
- ・視覚的に分かりやすいように評価の欄に教材や板書などの写真を入れる
- ・次年度への引継ぎ事項を記入する欄を設ける



(2) 全校縦割りでの授業デザインミーティングの実施

年3回（5月、8月、1月）に全校縦割りでの授業デザインミーティングを実施し、単元検討や授業内容、児童生徒の変容などを検討、共有する機会とする。

5月	年間指導計画検討、単元・題材検討
8月	授業内容評価・改善 他教科との学びのつながり検討
1月	児童生徒の変容共有 次年度に向けての提言

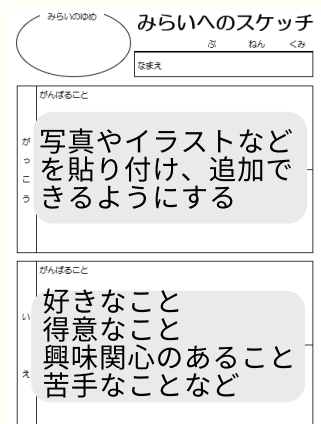
子どもの思いや願い(自立活動の視点も含む) ・自分の好きなことや得意なことを仕事にしたい。 ・働く力や生活する力をつけたい。(人間関係の形成、コミュニケーション、心理的な安定)	
学習グループ全体で育みたい姿、教師の思いや願い ・働くために必要な知識や生活するために必要な力を身に付け、実践する姿。 ・働くことの意味や目的を知り、勤労意識を高める。 ・自分のペースにあった仕事場を見つけてほしい。	
年間の単元計画 ・Ⅰ期現場・校内実習 事前・事後学習 ・仕事と生活① ・Ⅱ期現場・校内実習 事前・事後学習 ・仕事と生活② ・困ったときの対応 ・未来へのスケッチ	系統的な視点から ・(高1) ・校内実習 ・身近な人の働く姿・仕事内容 ・(高3) ・現場実習 ・進路決定
教師の支援(手立て) ・仕事と余暇の過ごし方の理解を通して、仕事と趣味を分けて考えられるようにする。 ・現場実習先からの評価やエピソードをもとに、自己理解を深める。 ・未来へのスケッチを活用し、将来の姿から学期ごとの目標や課題を明確にする。	
授業の工夫(しかけ) ・失敗談や課題を共有することで、否定的に自身を捉えずに誰にでもあることとして捉え、課題を克服する方向へ進めるようにする。 ・本人の進路希望と実現可能な生活する姿の提示(個に応じて)	
関連する各教科等(内容を含む) 国語科(メモの取り方と活用) 数学科(軽量・計測・お金の学習) 生単(コミュニケーション・役割) 家庭科(掃除・洗濯・身だしなみ) 総合(防災) 作業学習(作業能力・コミュニケーション・役割・責任) 日常生活(挨拶・身だしなみ・話し方)	

【研究対象授業】 小学部 遊びの指導、生活単元学習
 中学部 職業・家庭科
 高等部 職業科

職業・家庭科の教科を通しての縦のつながり
 職業・家庭科以外の教科等との横のつながり

(3) 児童生徒の「思いや願い」を大切にしたい実践

令和4年度の実践から、児童生徒の「思いや願い」を年間指導計画や授業づくりに生かしたいと提案があった。そこで、「未来へのスケッチ(キャリア・パスポート)」を活用し、児童生徒の「思いや願い」を聞き取り、授業に反映できるようにしたい。特に、言葉での意思表示が難しい、思いや考えをうまく伝えられない小学部の児童に対して、好きなこと、得意なこと、興味関心が出てきたこと、少し苦手なことなどを担任が見取り、保護者と連携した上で写真やイラストなどを効果的に使って活用していきたい。



(4) 「何を学んだか」「どのように学んだか」目標や評価の共有

児童生徒が「何を学ぶか」を見通すためには、「何を学んだか」「どのように学んだか」の視点を持ち、目標の評価や共有をしていくことが必要であると考え。そのために、未来へのスケッチ(キャリア・パスポート)を活用しながら児童生徒が学びを振り返ったり、日々の授業の振り返りや学びの積み重ねを児童生徒自身が見えるように工夫したりすることで、学びの見通しや学びのつながりがもてるようにしたい。

- 目標の設定**
単元前に生徒が何を頑張りたいか生徒自身が記入
- 授業**
新しい発見、新しい知識の獲得や学び直し
- 目標の振り返り**
単元後に生徒が学んだこと、目標に対する評価などを記入
- 家庭と連携**
学校で学んだことを家庭でも生かしたり、学校のことを知ってもらったりするために家庭と連携

生徒自身が学びを振り返り、学びをつなぎ、蓄積していく

